

2. 調査

2.1 調査概要

大町ダムの試験湛水は、昭和 59 年 11 月から昭和 60 年 5 月に実施された。この際、ジョイントからの漏水が図 2.1 に示すように最大 532l/min となった。このため、漏水経路を調査し、対策として上流面ジョイントを V カットしシーリング材をコーキング後、ボーリング孔よりセメントミルク注入を実施した。

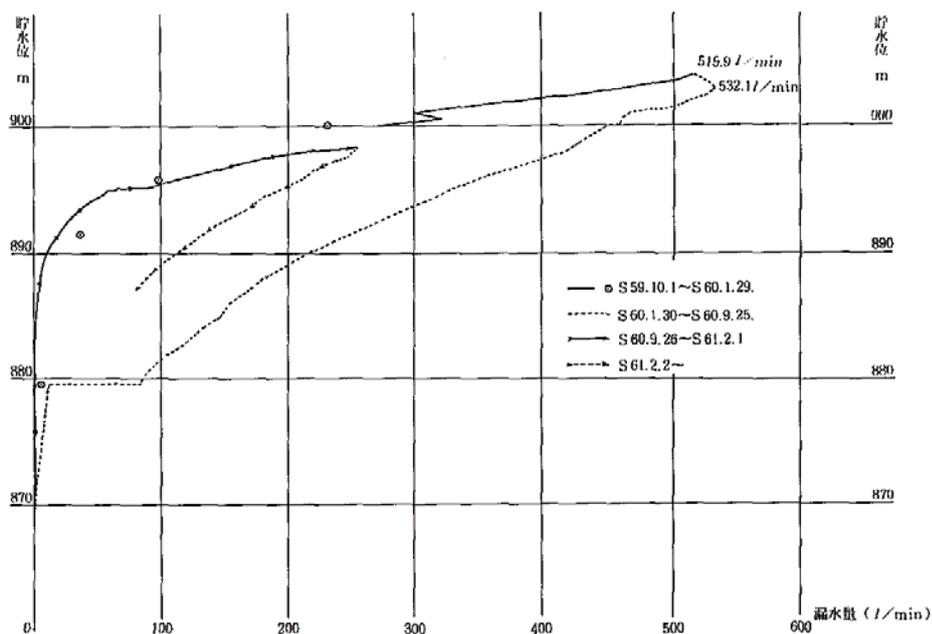


図 2.1 貯水位ジョイント漏水量関係図

2.2 調査内容

調査内容は以下のとおりである。

- ① 水中テレビカメラ調査
- ② 目視観察

2.3 調査結果

(1)水中テレビカメラ調査

試験湛水中の貯水位 894.96m(常時満水位-5.04m)の時点で水中テレビカメラによる漏水調査を行った(写真 2.1)。この結果に基づいて、貯水位低下 2m毎にボート上より目視マーキング調査を行った。

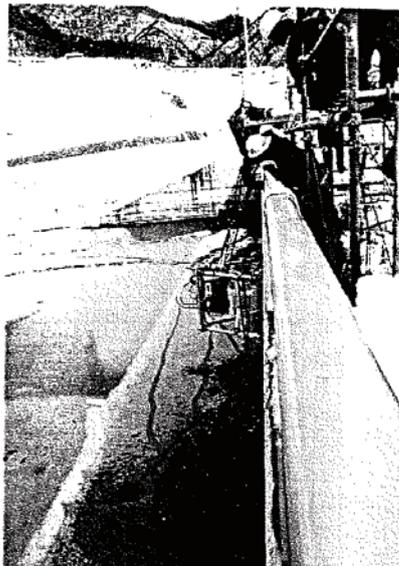


写真 2.1 水中テレビカメラ調査

(2)目視調査

ダム天端よりトラッククレーン 20t 車を使用しゴンドラ(3.0×2.0×1.0m)を上流面に吊下げ、ジョイントの開閉状況を調査した。同時に、水平クラックの調査も実施した。

その結果各ジョイントの開きは、最大で 7.3mm、最小で 0.1mmであった。